



安曇川沿いの紅葉の観光
鎌倉市観光



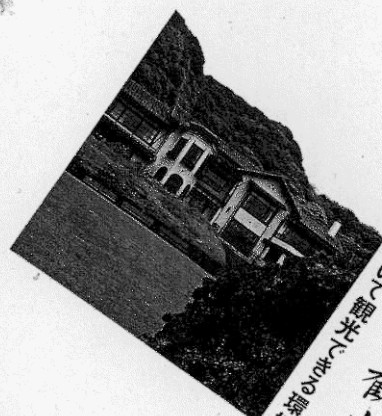
賑わいの観光
鎌倉市観光



新しい時代の観光
鎌倉市観光

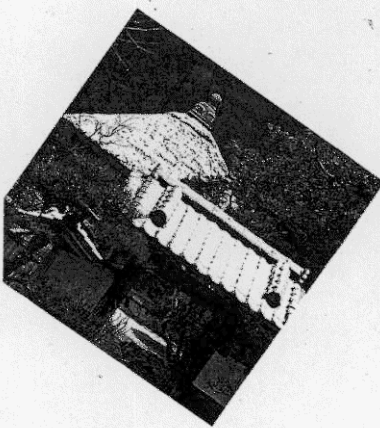


新しい時代の観光
鎌倉市観光



新しい時代の観光
鎌倉市観光

“住んでよかった、
訪れてよかった”
まちづくり



鎌倉市観光基本計画

目次

はじめに	1
序章 鎌倉市観光基本計画策定にあたって	2
1. 計画の目的と性格	2
① 計画策定の必要性	2
② 計画の目的	2
③ 計画の位置付け	2
④ 計画の期間	2
⑤ 計画の構成	2
2. 鎌倉の観光の概要	3
① 鎌倉の観光の現状	3
② 鎌倉の観光の特徴	5
第1章 鎌倉の観光振興の基本理念と基本方針	10
1. 基本理念	10
2. 基本方針	10
第2章 鎌倉の観光の目標と施策の展開	12
1. 目標の体系	12
2. 施策の方向性と事業計画	13
目標1 創る観光	13
目標2 賑わう観光	19
目標3 憩う観光	25
目標4 歩く観光	29
目標5 もてなす観光	33
3. 推進体制の整備	36

はじめに

「一所懸命」という言葉があります。鎌倉武士が一か所の領地を生命に懸けて、生活の頼みとした意味であり、武家政治の精神を象徴する言葉です。それが転じて現在の「一生懸命」という言葉になっています。これまでの観光行政は「一所懸命」たりえたでしょうか。ともすると逆に、鎌倉という土地の持つ豊かな自然、多くの歴史的遺産に依存していたことが多かったのではないのでしょうか。

鎌倉市は「環境自治体の創造」をめざす第3次総合計画が、この4月にスタートしました。その中で観光の視点からのまちづくりのあり方を定めたのが、この「観光基本計画」です。鎌倉の素晴らしい歴史的遺産と自然環境を守るとともに、付加価値を付けて観光客に提供し、楽しんでもらえるよう努力します。そして、寺社・名所依存型になりがちな観光から、新しい魅力を提供する創造型の観光への転換を目指します。

この計画を指針として、私たちばかりでなく、訪れる観光客にとっても“住んでよかった、訪れてよかった”と思えるまちを、市民、事業者、観光客、行政がともに、鎌倉武士のように「一所懸命」に育てていきたいと考えます。

この計画の策定にあたり、意見をお寄せくださった皆様はじめ、ご尽力をいただきました鎌倉市観光基本計画策定協議会の委員の皆様、関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成8年4月



鎌倉市長 竹内 謙

1.計画の目的と性格

①計画策定の必要性

鎌倉は、年間約2,000万人という多くの観光客が訪れる観光都市であり、豊かな歴史性に依存した観光が中心となってきました。しかし、市民の生活環境の変化や観光形態の多様化などにより、新たな観光のあり方を求める声が強くなっています。こうした中で、鎌倉の観光をめぐる転換期として観光基本計画の策定が必要となっています。

②計画の目的

本計画は、観光を通じたまちづくり、人づくりによって、市民や観光客が豊かな生活・観光を享受できるようになることを目的とするもので、そのための、鎌倉市における観光の新たなあり方と、それを実現するための方向性を提案するものです。

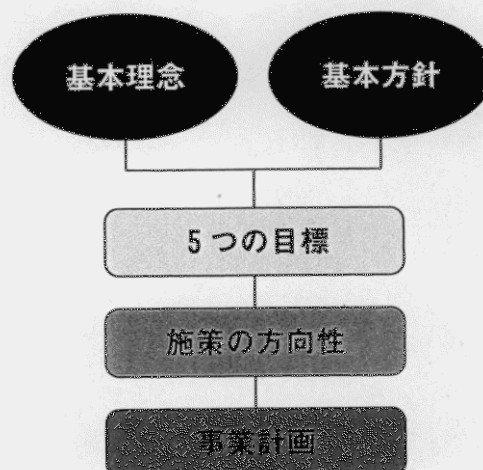
③計画の位置付け

鎌倉市は市民憲章で「鎌倉が世界の鎌倉であることを誇りとし、訪れる人々に良識と善意をもって接します。」とうたっています。本計画は、市民憲章の精神にのっとりながら、まちづくりの将来目標とこれを実現するための方向性を定めた第3次鎌倉市総合計画の中で、観光の視点からまちづくりのあり方を定める分野計画として位置付けます。また、策定にあたっては、他の分野計画との連携を図っています。

④計画の期間

平成8年度から17年度までの、概ね10年を計画期間とします。

⑤計画の構成



2.鎌倉の観光の概要

① 鎌倉の観光の現状

観光客の推移

過去数年間の観光客入込状況を見ると、鎌倉へは年間で約1,900万人から2,300万人の観光客が訪れており、最近では横ばい状態となっています。これらの観光客は、首都圏から、繰り返し訪れる、小グループによる日帰り旅行者が多くを占めており、訪問手段は鉄道が8割弱で、市内の移動は徒歩が7割弱となっています。一方、鎌倉での宿泊客数の観光客全体に占める割合は他の主要観光都市の割合の10分の1程度と大幅に低くなっています。また、夏場の海水浴客の推移をみると、昭和46年(1971)を最後に200万人を割り、最近数年間は、冷夏であった年を除くと130万人前後の人出となっています。このほか鎌倉では、初詣の人出で全国十指に入る神社もあり、平成7年正月三が日の初詣客は約200万人を数え、1月の観光客が非常に多い要因となっています。

歴史に裏打ちされた魅力

ここで、多くの観光客を呼び寄せる鎌倉の魅力について、鎌倉の歴史を振り返りながら見てみましょう。鎌倉では鎌倉時代以前にも、それぞれの時代の文化が築かれてきていたことが遺跡などからわかっていますが、何と云っても、今日の鎌倉のまちの骨格は、12世紀末に源頼朝が鎌倉幕府を開府したときに形成されたといえます。頼朝が、鶴岡八幡宮を中心に街区を整え、そして、武家政治の中心となった鎌倉には、新しい仏教が広まり、多くの寺院が建立されました。その後、盛衰はあったものの、江戸時代中期(17世紀後期)には、生活にゆとりの出てきた人々が物見遊山を楽しむようになり、鎌倉は、江の島とともに観光の対象として注目されるようになります。さらに、鎌倉のもつ温暖な気候に加え、明治に入ると、鎌倉の海が海水浴場に最適であると紹介されたこと、また、横須賀線が開通したことにより、鎌倉は、華族、軍人、財界人等の保養地、別荘地という新しい顔で賑わうこととなります。大正、昭和にかけては、いわゆる「鎌倉文士」と呼ばれた作家、知識人が多く住んだことが知られています。昭和41年(1966)、「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法(古都保存法)」の制定にあ

たっては、これらの人々と市民による運動がきっかけになりました。鎌倉は、この法律により歴史的風土が保全されたといえます。このような多彩な歴史に裏打ちされ、鎌倉は、現在、様々な魅力を持つまちとなったのです。例えば、多くの寺社が現存し、山と海の自然に恵まれ、街角には別荘建築の名残である洋館が見受けられます。また、最近、鎌倉芸術館、映画のテーマパークが開館し、鎌倉文化の新しい拠点となりつつあります。このほかにも、四季折々には寺社を舞台に伝統的な祭事がとりおこなわれるほか、鎌倉三大まつりとしての鎌倉まつり、花火大会、薪能などが催されています。

鎌倉の観光を取り巻く環境

最近では、観光の分野にも国際化現象が見られます。日本人の海外旅行者数は最近10年間で著しい増加傾向にあり、平成6年(1994)には、約1,360万人が海外に出かけています。また、観光や業務で日本を訪れる外国人数も、平成6年には約350万人にのぼっています。このように、日本人の海外旅行が急増するとともに、外国人も多く訪日する中で、国内の観光地のあり方も変化せざるを得ない状況です。また、最近の観光に対するニーズは、見るという観賞型観光に加えて、食べる、遊ぶ、創る、経験するなどの体験型観光へのニーズが高まっています。さらに、周辺市町には新たなテーマパークやコンベンション施設が開発され、観光地として相互の連携を強める必要があります。こうした中で、国内はもとより世界にも、その名を知られる鎌倉が、今後、どのような観光を目指していくのかが問われているといえるでしょう。

② 鎌倉の観光の特徴

特徴1 人口・市域の面積に対して多くの観光客が訪れていること。

他の国内の観光都市と比べ、面積・人口あたりに占める観光客数が多くなっています。
(表1 国内主要観光都市の入込客数の比較)

特徴2 訪れる観光客が、地域的・季節的・時間的に見て偏りがあること。

観光客の訪れる地域は、鎌倉地域や山ノ内地区に多く偏っており、季節的にみると、初詣や春秋に訪れる観光客が多いのが特徴です。また、観光客の訪れる時間は、午前11時から午後2時までが多く、午前中と午後3時以降との差が顕著になっています。
(図1 市内主要観光施設の時間帯別入込比率、図2 観光客の月別入込比率)

特徴3 あらゆる世代が、多様な目的をもって訪れていること。

鎌倉への来訪目的は、寺社、史跡の見学、海や山等の自然とのふれあい、まち並み散策など多岐にわたっており、世代別に特徴が見られます。また、観光客の年齢構成比からみても、鎌倉があらゆる世代から支持されていることがわかります。
(表2 来街目的別来訪者年齢構成比)

特徴4 繰り返し訪れる観光客が多く、再来訪意向が高いこと。

鎌倉を訪れる観光客の約8割が2回目以上の来訪者で、繰り返し訪れる観光客が多い。うえ、「今度ぜひ来てみたい」「まあ来てみたい」という観光客の割合が9割以上と、再来訪意向が非常に高くなっています。
(図3 鎌倉市への来訪回数)

特徴5 国際的に知られる観光都市であること。

鎌倉は外国人の訪問地としては、全国で15番目に位置し、国際的に知られています(注1)。鎌倉を訪れる外国人観光客数は、年間60万人を超えると推定されます(注2)。また、昭和62年には「かながわ国際観光モデル地区」に指定されています。

(注1) 国際観光振興会「訪日外客訪問地調査'93年度」

(注2) 「鎌倉市観光客動態調査」(平成5年度)より推計

特徴6 首都圏からの日帰り観光地としての性格が強いこと。

鎌倉へ来る観光客は、1都3県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)からの人々が約8割を占めており、市内への宿泊客数が観光客入込数に占める割合は他の観光都市と比べて低く、首都圏からの日帰り観光地としての性格が強くなっています。
(表3 県別入込客数構成比、表4 国内主要観光都市の宿泊客率)

特徴7 全国的に知名度が高く、良好なイメージを持たれていること。

鎌倉は、全国的によく知られ、各種雑誌・テレビ等での観光特集などで数多く取り上げられていることから、良好なイメージと高い関心が持たれていることがうかがえます。

表1 国内主要観光都市の入込客数の比較

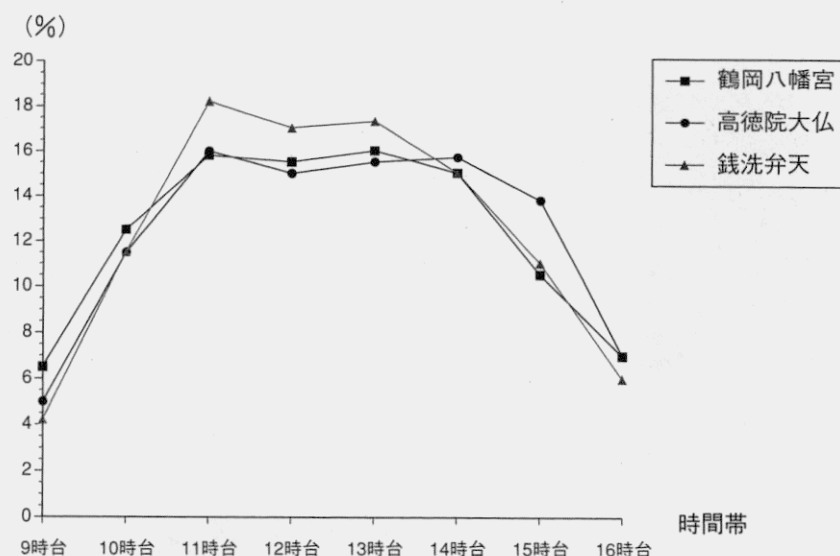
	入込客数 (千人) A	面積 (km ²) B	人口 (人) C	面積当りの 入込客数 (千人) A/B	人口当りの 入込客数 (千人) A/C	面積当りの 市内 混雑度数 (A/365+C) /B
小樽市	5,087	242.99	160,711	21	32	719
函館市	4,815	346.74	303,112	14	16	912
日光市	7,068	321	19,834	22	356	122
金沢市	5,788	467.8	430,926	12	13	955
高山市	2,080	139.6	64,489	15	32	503
横浜市	25,604	435.3	3,250,548	59	8	7,629
鎌倉市	19,659	39.6	174,782	496	112	5,774
奈良市	13,982	211.6	352,889	66	40	1,849
京都市	38,288	610.2	1,394,964	63	27	2,458
神戸市	27,500	543.79	1,468,208	51	19	2,839
萩市	1,572	137.93	49,497	11	32	390
長崎市	5,595	240.8	439,129	23	13	1,887

注1) 入込客数は、93年の年間の延べ入込客数（各市観光統計資料より）

注2) 面積は90年10月1日現在（国土地理院「全国都道府県市町村別面積調」より）

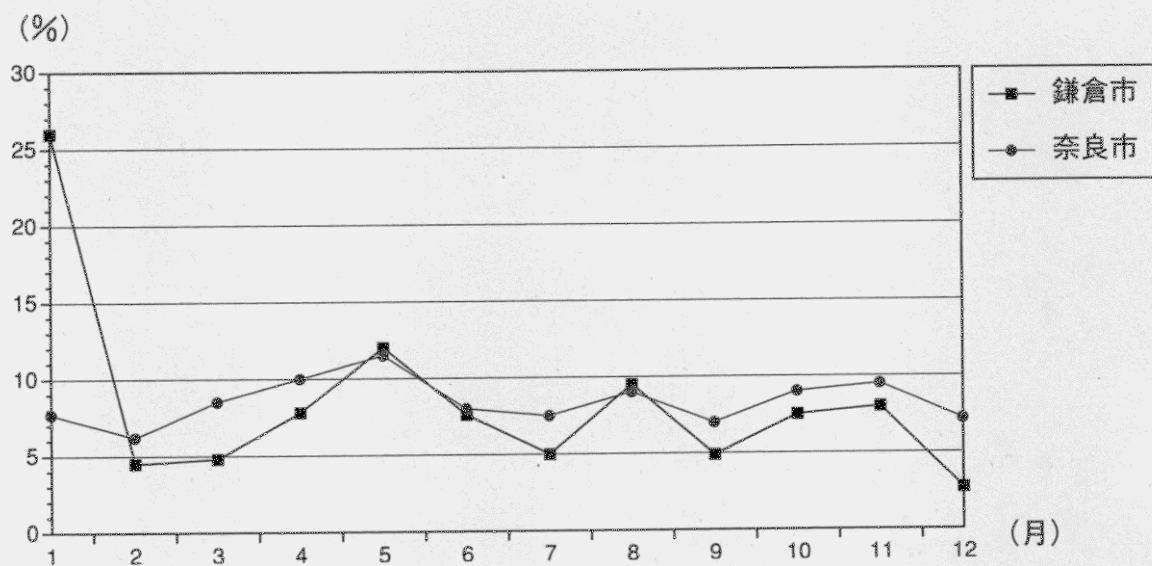
注3) 人口は93年3月31日現在（自治省「住民基本台帳」より）

図1 市内主要観光施設の時間帯別入込比率

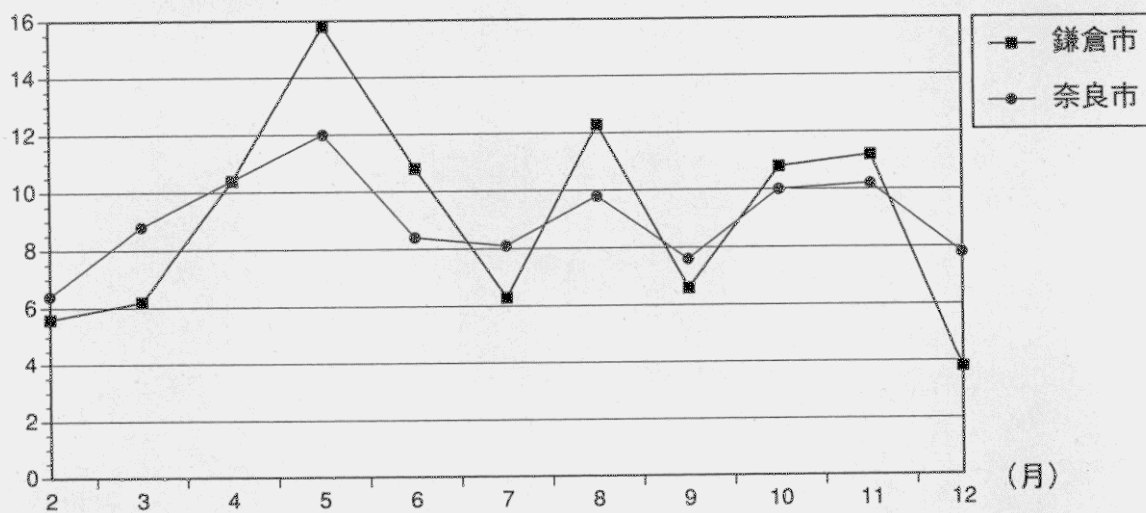


注) 時間帯別入込比率…各施設入込総数に占める時間帯別入込数の割合
出所) 鎌倉市観光客動態調査(カウント調査 平成5年度)より作成

図2 観光客の月別入込比率



(%) (1月を除いた場合)



注1) 月別の延べ入込数の年間合計に対する各月の入込数の割合

注2) 奈良市、鎌倉市とも93年データ

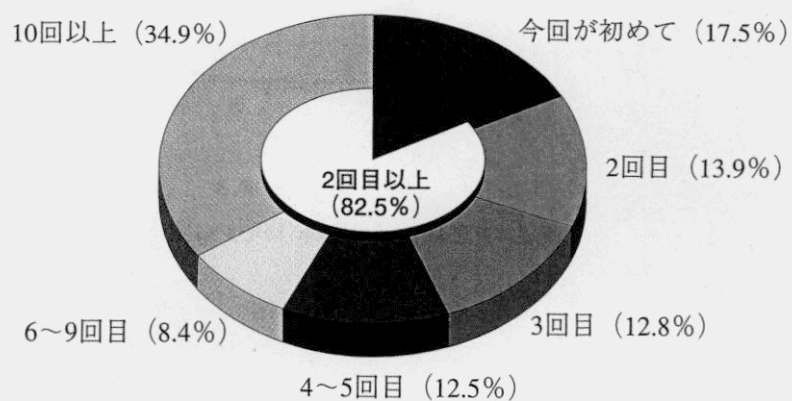
出所) 奈良市「奈良市入込観光客数調査報告書」、鎌倉市「観光客入込調査」より作成

表 2 来街目的別来訪者年齢構成比

性別×年齢		合計	史跡	自然	街	文化施設	その他
実 数 (人)	全体	2142	1393	716	348	120	170
	男性	1087	702	384	135	68	105
	24歳以下	276	140	123	36	12	26
	25～59歳	700	476	228	93	51	63
	60歳以上	111	86	33	6	5	16
	女性	1055	691	332	213	52	65
	24歳以下	399	240	138	97	15	22
	25～59歳	570	388	174	103	30	32
	60歳以上	86	63	20	13	7	11
構 成 比	全体	100.0%	65.0%	33.4%	16.2%	5.6%	7.9%
	男性	100.0%	64.6%	35.3%	12.4%	6.3%	9.7%
	24歳以下	100.0%	50.7%	44.6%	13.0%	4.3%	9.4%
	25～59歳	100.0%	68.0%	32.6%	13.3%	7.3%	9.0%
	60歳以上	100.0%	77.5%	29.7%	5.4%	4.5%	14.4%
	女性	100.0%	65.5%	31.5%	20.2%	4.9%	6.2%
	24歳以下	100.0%	60.2%	34.6%	24.3%	3.8%	5.5%
	25～59歳	100.0%	68.1%	30.5%	18.1%	5.3%	5.6%
	60歳以上	100.0%	73.3%	23.3%	15.1%	8.1%	12.8%

出所) 鎌倉市観光客動態調査 (ヒアリング調査 平成5年度)。サンプル数は2,142人

図 3 鎌倉市への来訪回数



出所) 鎌倉市観光客動態調査 (ヒアリング調査 平成5年度)。サンプル数は2,143人

表 3 県別入込客数構成比

	県別入込客数構成比
神奈川県	39.3%
東京都	26.4%
千葉県	6.9%
埼玉県	6.8%
計	79.4%

出所) 鎌倉市観光客動態調査 (ヒアリング調査 平成5年度)

表 4 国内主要観光都市の宿泊客率

	宿泊客数(人) A	入込客数(人) B	宿泊客率 $A \div B$
小樽市	422,164	4,166,213	10.1%
函館市	3,698,187	5,066,154	73.0%
日光市	1,543,800	7,882,000	19.5%
金沢市	2,210,000	6,050,000	36.5%
高山市	1,033,000	2,464,000	41.9%
横浜市	2,739,000	25,721,000	10.7%
鎌倉市	288,000	22,753,000	1.3%
奈良市	1,921,000	13,982,000	13.7%
京都市	9,570,000	38,690,000	24.7%
神戸市	7,930,000	24,030,000	33.0%
萩市	755,242	1,781,610	42.4%
長崎市	2,061,159	5,701,337	36.2%

注1) 金沢市、神戸市、萩市は、地域全体の数値

注2) 宿泊客数、入込客数はどちらも延べ人数

出所) (社) 日本観光協会「全国観光動向—平成4年(度)—」(94年6月)より作成

1.基本理念

本計画は、鎌倉の持つ様々な魅力が国民共有の財産であることを認識しながら、「住んでよかった、訪れてよかった」と思えるまちを、市民、観光客と行政がともに育てていくことを理念とします。

2.基本方針

鎌倉市は、基本理念を実現していくにあたり、次の6つの基本方針を定めます。

(1) 歴史的遺産と自然の保全と観光資源としての活用を図ります。

鎌倉を訪れる人々に感動と心の安らぎを与える貴重な歴史的遺産と豊かな自然の魅力を、その魅力が損なわれないように保全しながら、さらに、観光資源としての新しい魅力を付加して活用を図ります。

(2) 環境にやさしい観光の実現を図ります。

観光施策の推進にあたっては環境への配慮を進めるとともに、鎌倉へ訪れる観光客に対し、鎌倉市が提唱している環境自治体をアピールし、良好な環境への意識の拡大、向上を図ります。

(3) 観光客、市民、事業者の相互理解を図ります。

だれもが他の観光地を訪れるときは、観光客としてもてなされることを望むものです。鎌倉も市民、事業者が協力して、観光客をやさしく迎えるまちになることが必要です。また、観光客には鎌倉をよりよく知り、マナーを守ることが期待されます。このために、観光客、市民、事業者が、お互いに理解し合うと同時に、それぞれが向上するよう努力していきます。

(4) 市民と観光客が共有できる観光基盤の整備を図ります。

市民も観光客もともに快適に過ごせるような観光施設、情報等の基盤整備を図ります。整備にあたっては、高齢者、障害者、外国人等様々な人々が利用しやすいよう考慮して行います。

(5) 鎌倉観光の質の向上を図ります。

鎌倉は、落ち着きと独特の文化を同時に感じることでできるまちであるとともに、近代の歴史からみても市民には創造のエネルギーも満ちています。鎌倉が持つ良好なイメージを大切にしながら、さらに古さと新しさの魅力ややさしさを合わせ持つ観光へと質を向上させていきます。

(6) 観光による経済の活性化を図ります。

賑わいがあり楽しむ要素が多いまちほど、活気にあふれ経済活動も活発になるといえます。観光客が鎌倉を一層楽しむことでできるまちにしていくことにより、まち全体の経済の活性化を図ります。

1. 目標の体系

現在、鎌倉の観光をめぐる様々な問題点、課題を解決するため、次の5つの目標を定めます。これらの目標に向かって、具体的な施策を展開していくことにより、計画の目的を達成できることと考えます。

目標1

創る観光

新しい魅力の創造と
観光客自らが創る観光



- ①新しい魅力の発見と付加
- ②海浜の有効活用
- ③繰り返し訪れる観光客への対応
- ④多様な観光情報の提供
- ⑤体験学習・交流の機会づくり

目標2

賑わう観光

観光を通じた活気ある
まちづくり



- ①観光拠点の整備
- ②まちの賑わいの演出
- ③飲食店・物販店の充実、近代化
- ④地場産業の振興
- ⑤滞在型観光の推進
- ⑥コンベンション参加者への対応

目標3

憩う観光

快適に過ごせる
観光空間の整備



- ①憩いの空間整備
- ②公衆トイレの整備
- ③観光ごみへの対応
- ④観光地美化の啓発

目標4

歩く観光

楽しく歩いて観光
できる環境の整備



- ①パーク・アンド・ライド(ウォーク)の推進
- ②歩く道・ハイキングコースの整備
- ③観光案内の充実

目標5

もてなす観光

観光客をあたたかく
迎える観光地づくり



- ①観光ボランティアの育成
- ②ホームビジット・ステイの推進
- ③観光関連の人材育成
- ④もてなす意識の向上運動



2.施策の方向性と事業計画

目標1

創る観光

事業内容／事業計画欄で※で示した事業は、第3次鎌倉市総合計画前期実施計画（平成8年度～12年度）に記載された事業です。実施年度の記載のない事業は期間内に継続的に実施していくもので、事業によっては中長期にわたるものもあります。また、○で示した事業は、主な現行事業です。

創る観光とは

現在ある鎌倉の魅力に付け加えて、新しい魅力を創造することと、観光客が、それぞれ独自の観光プランを創造し、自分なりの鎌倉の魅力を発見できるような環境を整備することを目標とします。

背景

現状

鎌倉の観光を取り巻く環境を見てみると、最近は見ただけの観光に加えて、学習したり、自ら体験する観光のニーズが強まり、周辺の市町では、観光開発によって急速に観光の魅力を高めています。一方、鎌倉は寺社の名所観光に依存し、新しい魅力を提供する努力が欠けていると指摘されたり、観光客からは、観光情報の不足が指摘されたりしています。

また、鎌倉の魅力の大きな要素である海浜への観光客数は、海水浴客を含め、長期的に見て減少傾向にあり、海水浴以外でも海浜が活用されることが望まれています。

課題

観光資源を有効に活用し、観光の新たな魅力を創造することが必要です。

鎌倉へ繰り返し訪れる観光客に対しても、新しい魅力が提供できることが必要です。

観光客自らが自分なりの観光プランをつくれるような、多様な観光情報を提供できる環境を整備することが必要です。

施策の方向性

① 新しい魅力の発見と付加

鎌倉の歴史、文化、自然などの中で埋もれた観光資源を発掘するほか、現在ある資源を生かしながら、新しい魅力を付け加える施設や活用方法を開発します。

事業名

事業内容／事業計画

歴史的公園の整備

鎌倉の主要な史跡である永福寺跡（二階堂）を史跡公園として保存、活用を図るなど、鎌倉の歴史を知る公園の整備を進めます。
※国指定史跡永福寺跡環境整備事業／平成9年度、事業に着手
※史跡の公有化

歴史等学習施設の整備

鎌倉の歴史や文化などを楽しく学習したり、体験できる施設の整備を進めます。
※(仮)文化財資料館の建設／建設に向けて準備
※博物館の検討
※旧川喜多邸の管理と活用の検討

美術館の整備

多くの文化人が住み、著名な芸術作品が生まれた鎌倉の文化と風土を象徴するような美術館の建設を進めます。
※(仮)鎌倉美術館の建設／(仮)鍋木清方記念美術館を平成10年度開館

休憩施設の検討

雨天時にも観光客がゆっくりと休憩や食事ができる施設について検討します。
※休憩施設の調査・検討

潜在的な観光資源の発掘

貴重な歴史的背景などを持ちながら活用されていない観光資源に光をあて、有効な活用方法を検討します。
※史跡管理計画・整備計画の策定／北条氏常盤亭跡は平成9年度に暫定整備に着手
※文化資源の保存と活用
○洋風建築物等の保存と活用

② 海浜の有効活用

海を持つ古都をアピールできるような、海浜の活用方法を研究します。

事業名

事業内容／事業計画

広く美しい砂浜の再現

広く美しい砂浜の再現のための養浜対策として、潮流調査の実施と抜本的な解決策などを県へ要請します。

海水浴場の改善整備

関係機関・団体等で構成する検討委員会を設置し、海の家等の改善や海水浴場の近代化など、景観・機能・環境保全面を含め、魅力ある海水浴場づくりに向けて協議します。
※魅力ある海水浴場づくりへの検討

鎌倉海浜公園由比ガ浜地区の整備

公園の魅力を高め、観光客も利用できる施設の整備を検討します。
※鎌倉海浜公園由比ガ浜地区の整備／平成11年度整備完了

海浜イベントに対する支援

海浜を活用し、市民、観光客がともに楽しめるイベントに対して、積極的に支援を行います。支援の内容は、情報提供、人的支援、資金面の支援等が考えられます。
○海水浴場行事への支援

事業名

事業内容／事業計画

国道134号のあり方の検討

海浜の活用のために、国道134号のあり方を検討します。

海浜及び周辺のあり方の研究

海浜を中心とした施設や地域のあり方について、様々な角度から研究を行います。

※鎌倉海浜公園坂ノ下地区の整備

※《(仮)鎌倉海浜ベルト総合整備構想》構想の策定と推進

※《(仮)腰越駅周辺地域総合整備構想》構想の策定と推進

③ 繰り返し訪れる観光客への対応

鎌倉への来訪者の大部分を占める繰り返し訪れる観光客を大切に育て、再来訪を促す仕組みづくりに努めます。

事業名

事業内容／事業計画

鎌倉パスポート・鎌倉周遊スタンプ等の発行

市内交通機関、観光施設、飲食・土産物店等が特典利用できるよう「鎌倉パスポート」や市内の様々なポイントに設置されたスタンプを積み立て、それによって記念品等を贈呈する「鎌倉周遊スタンプ」など、繰り返し訪れる魅力になるものを考えます。

風致保存会の会員登録に伴う特典の研究

財団法人鎌倉風致保存会は、現在、組織強化とあわせて賛助会員制度を模索しています。鎌倉の自然保全への支援を観光客も取り込んで推進するという視点から、観光客への会員登録募集の方法をあわせて検討します。

※(財)鎌倉風致保存会の支援

①多様な観光情報の提供

観光客や市民がそれぞれの求めるテーマに沿って、自らの観光をつくるための情報を充実し、提供できる環境を整備します。

事業名

事業内容／事業計画

充実した観光案内書の作成

観光地図、ガイドブック、テーマ別パンフレット等、各種案内書を作成します。ガイドブックは、鎌倉観光の索引ともなる内容を盛り込み、観光ボランティア、市民等の意見、アイデアを取り入れながら編集し作成します。テーマ別観光パンフレットは観光ルート、観光目的、商店・飲食店等のテーマが考えられます。

※各種観光案内書の発行

観光情報センターの整備

主要観光拠点に観光情報の拠点整備を進めます。新しい情報機器等の導入により、求める情報がどこでも、即時に入手できるシステムの開発を促進します。宿泊施設、飲食店等との連携についても研究します。また、観光情報センターと公共施設、海浜公園施設等との情報ネットワーク化も進めていきます。

※(仮)鎌倉市地域情報センターの建設準備

※北鎌倉観光案内所等複合施設の建設

※観光情報提供システムの研究

非常時に備えた観光客への対応

地域防災計画の見直しの中で、観光客への情報伝達を検討します。伝達の手段についてはテレピア計画（消防緊急情報システム）と連動させます。

※防災対策の計画的な推進

事業名**事業内容／事業計画****外国語表示の促進**

観光案内板、ガイドブック、パンフレット等による情報提供にあたっては、外国語の表記をあわせて行います。

※各種観光案内板の整備

※各種観光案内書の発行

○外国語による行政情報の提供

各種メディアの活用の検討

ケーブルテレビ、FM、データ通信、インターネット、電話等を活用した観光情報の提供を検討します。テレピア計画(歴史と文化のまち鎌倉情報システム、鎌倉ガイド情報システム)と連動させます。

※テレピア計画の推進・充実

⑤ 体験学習・交流の機会づくり

体験型観光のニーズにこたえられる観光資源を開発します。

事業名**事業内容／事業計画****体験型観光の推進に対する支援**

体験型観光として、鎌倉では鎌倉彫、陶芸、座禅、自然観察等を学習、体験できる観光が考えられるため、こうした観光の推進を支援します。

※自然の中で行うスポーツの振興